

## 国際教養科の併置された高校における人権教育

### 思考・判断・表現する人権教育と学校図書館との連携 (抄)

大阪府立佐野高等学校

#### 1 本のある風景



階段の踊り場に設けられた図書コーナー

… 学校図書館という空間は、社会や世界（宇宙）につながる学校の知識の出島です。そこでは、どこにもどんな時代にも、どんな空間にも行くことが可能です。多くの人との出会いがわたしたちの成長を促すように、学校図書館では本との出会いがあります。それだけでなく、学校図書館は資料を集めて、読みとり、自分の考えをまとめて、発表するなどの活動を支援するためのセンターとして、その威力を発揮してくれます。

(「学校図書館で過ごす国際理解」序文)

#### 2 本と図書教材とイーゼル ～ 文科省人権教育研究指定を受けて

ここ数年、佐野高校では学校づくりのキーワードとして、「国際教養科の併置された」という枕詞を多用してきた。同時にそれは、普通科・国際教養科という学科の違いを問わず、本校に学ぶ生徒に身につけさせたい国際教養とは何かという問いかけでもあった。2009 年から二年間文部科学省から人権教育に係る研究指定を受けた際、最初に思いついたのは、①子どもたちにはできるだけたくさんの本と出会ってほしい、②教職員に向けた図書教材を充実させたい、③購入された本をイーゼルで立体的に紹介していきたい、以上であった。ここでは図書の教材化を中心に、学習・情報センターとして機能する学校図書館との連携の重要性について提案したい。

#### 3 「国際理解」～ 思考・判断・表現する総合学習

総合学習「国際理解」は3年次の総合学習における選択講座として開講されている。南北間の経済格差、国内外の人権問題、地球温暖化に代表される環境問題、その中で国連の果たすべき役割等、現在の世界が抱える諸課題、そして内なる国際化等について理解を深める。また、それらの課題と私たちの関わりを考察し、解決に向かう態度を総合学習のアプローチから育成することをねらいとしている。文化的背景の違いを生み出す主要因が、年齢・社会的性差・民族・国・地域の差異であるならば、扱う主題は国際間、民族間にとどまらない。

開講されて三年目。最近では、国際理解「を」教えるのではなく、国際理解「で」何を教えるのかということをよく考えるようになった。さまざまな教材を通して個々の問題の意識化をはかり、その解決のための技能を身につけること、これまでわたしたちは総合学習においていくつかの目標と方法論をその実践から獲得してきた。グローバルな視点から見えてくる人権教育の課題について、授業の際に参考にさせていただいたメディアとともに報告する。

| 留意すべきいくつかのテーマ          | 学習の観点                  |
|------------------------|------------------------|
| 南北問題や国際協力にかかわる諸課題      | 学習の態度・アクティビティへの姿勢・知識理解 |
| 世界と日本の教育にかかわる諸課題       | //                     |
| 世界と日本の貧困にかかわる諸課題       | //                     |
| 世界と日本の人権にかかわる諸課題       | //                     |
| 世界と日本の多文化・多様性にかかわる諸課題  | //                     |
| 世界と日本の難民・移住労働者にかかわる諸課題 | //                     |
| 世界と日本の人口・食料・資源にかかわる諸課題 | //                     |
| 持続可能な開発（ESD）にかかわる諸課題   | //                     |
| 世界と日本の諸課題とわたしたちのかかわり   | 課題の発見・問題解決能力の育成        |
| レポート作成やプレゼンテーション       | レポート内容・プレゼンテーションの技能    |

『新しい開発教育の進め方 地球市民を育てる現場から』開発教育推進セミナー編 / 1995 古今書院  
 『新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』2006 開発教育協会  
 『ケータイの一生 - ケータイを通して知る 私と世界のつながり』石川一喜ほか / 2007 開発教育協会  
 北代色さんの手紙・「識字に行くことで」1983 上田正勝  
 『反貧困学習 格差の連鎖を断つために』大阪府立西成高等学校 / 2009 解放出版社  
 『開発教育実践ハンドブック 参加学習で世界を感じる』 / 2003 開発教育協会  
 「世界中の子どもに教育を」教育協力NGOネットワーク（JNNE） <http://jnne.org/gce2010/>  
 『子どもたちとHIV/エイズ』 国境なき医師団「必須医薬品キャンペーン」2007 パンフレット  
 『走れ！やすほ につぼん縦断地雷教室』上泰歩 / 2005 国土社  
 『ほっとけない世界のまじしさ』 / ほっとけない世界のまじしさ編 / 2006 扶桑社  
 『新・貿易ゲーム - 経済のグローバル化を考える』2007 開発教育協会・神奈川県国際交流協会  
 「世界の貧困をなくしたい」STAND UP TAKE ACTION 実行委員会  
 『援助する前に考えよう 参加型開発とPLAがわかる本』2006 開発教育協会  
 『少女達の日記帳』2009NHK  
 『夕風の街 桜の国』この史代 / 2004 双葉社  
 『ユネスコ憲章』1945 国連教育科学文化機関  
 『ぶつかる力 ひきあう力 - 対立と解決 -』大阪府人権協会 / 2008 大阪府府民文化人権室  
 (『貧困と開発 豊かさへのエンパワーメント』2005 開発教育協会  
 環境省 自然環境局 生物多様性センター <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>  
 『多様性トレーニング・ガイド』森田ゆり / 2000 解放出版社  
 『クラスメイトは外国人』「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会 / 2009 明石書店  
 「私と小鳥とすずと」『金子みすゞ童謡集』1984 J U L A 出版局